

対人援助学 & 心理学の縦横無尽 7



サトウタツヤ@立命館大学文学部心理学専攻

福島・ふくしま・Fukushima (1)

今回からは、福島のことなどを書いてみたい。なるべく長く色々。

私は立命館大学に来る前は福島大学行政社会学部助教授として七年間福島に住んでいた。

今や有名になってしまった Fukushima。そして、一時期ホットスポットとして有名になった渡利というところに住んでいたのがあった。

2011年3月11日、地震がおき、これまた有名になった Daiichi (福島第一原発) で放射能漏れが起きて以来、福島から離れた人間として何をすべきか、考えていたりもした。

これまた個人的な事情ではあるが、父母は福島県喜多方市出身であり、隣の会津若松市も含めて親戚が何人か住んでいる。福島は心理的に近い場所、なのである。そうであるのに何もできない、という思いもあるし、何かしても的外れになってしまうのではないか、という思いもあるし。

などとグダグダ考えていたところ、立命館大学生存学研究センターの院生プロジェクト「生存学における原子力研究会」の若手研究者たちが、福島大学の原発災害支援フォーラム (FGF) の人たちを呼んで話を聞きたい、ということになり、仲の良い元同僚が多かったので、呼んで話を聞くことにした。旧交を温めるというよりはシビアな話の連続ではあったが、福島に来て欲しい、それが観光であっても、実地調査であっても、という話があったので、いよいよ出かけることにした。この会がきっかけで院生が福島県立医大助手になるという全く予想外の出来事もあったりして、福島に出かける動機は高まっていた。

とはいえ、私も研究者のはしくれであり、観光に行くというわけにもいかない。そこで風評被害メカニズムの研究をすることにした。思えば、私がうわさ研究に足を踏み入れたのは、1995年の阪神・淡路大震災の時だった。その時、福島大学行政社会学部の同僚たちや学生たちと『震災と行政と社会』という冊子を刊行し、その売り上げを被

災地に贈ったのだった。その時、テーマとして選んだのが「地震とうわさー関東大震災の虐殺」であり、それ以来、私はうわさ研究を手がけるようになったのであった。

今、そのキャリア（轍）を活かさないでどうするのだ？

立命館大学の「東日本大震災に関する研究推進プログラム」に風評被害研究を行うという申請を出して採択された。2012年6月にはエストニア・タリン大学のカトリン・クラセップ准教授が来日することになっていたので、「被災地に行ってみるか？」と尋ねてみた。イヤがる人はイヤがるのだが、カトリンは行ってみたいという返事をくれた。それで本当に行ってみようということになった。生存学研究センター研究員の木戸彩恵氏を協働研究者に迎え、院生も関心をもってくれたので、一緒にいくことにした。しかし、さて、被災地に行く、と言ってもどこにどうやっていくのがいいだろうか？

日本質的心理学会・震災WGで活動をしている茨城大学・伊藤哲司教授に連絡を取ったところ、太平洋の海岸沿いをいろいろと案内してくれるという。ご長男とご一緒に、しかも、9人のりのバンを出して運転までしてくれるというのである。伊藤哲ちゃんとの付き合いも最早20年近くになるわけだが、いつでも頼れる男である。

というわけで、出発するまでにこれだけ書いてしまった。福島の話はどうなったのか？つまり、私はいろんな人に助けられて福島に行くことができたのだが、それを書く福島に着くまでのことを書ききれない！

詳細のレポートは次号に譲るとして写真を二葉ほどお見せしよう。いずれも、2012年6月の状態である。

まずは飯館村役場。0.71 マイクロシーベルト/時間である。この数値に24をかけ365をかけると年間の線量になる。6219.6 マイクロシーベルト/年、つまり6.5ミリシーベルトである。（写真1）

ところが、ここから車で五分も走ると、除染中。除染という言葉が良いのかは疑問である。要は表面の土を黒い袋に入れているのである（写真2）。この土の行き先はどうなるのか、気になるところだが、それはともかく、簡易版・ポータブルの線量計で測ってみると、3.71 マイクロシーベルト/時間である（写真3）。村役場の数値の約五倍。ここでも同じようにこの数値に24をかけ365をかけると年間の線量になる。32.5ミリシーベルト/年、であり、現状で人が住めるような数値ではない。

2012年6月でこの数値である。私たちはこの数値をどう受け止めればいいのか。





参考サイトなど

福島大学原発災害支援フォーラム

<http://fukugenken.e-contents.biz/>

6月4日(月)「風評被害の構造」

<http://fsl-fukushima-u.jimdo.com/2012/06/06/災害復興研究所-定例研究会を行いました/>

東日本大震災に対する本学会の取り組み

http://www.jaqp.jp/news/110830_oshirase/